
ユナイテッド

狭山茶太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユナイテッド

【Nコード】

N4550D

【作者名】

狭山茶太郎

【あらすじ】

埼玉県にある狭山市と人間市が合併してできた茶所市。この町にある弱小プロサッカークラブが舞台のフィクションサッカーストーリーです。

プロローグ（前書き）

作中に登場する団体・組織・個人等は全てフィクションです。

ブローグ

埼玉県茶所市…入間市と狭山市が合併してできたこの町には一つのサッカークラブがある。

茶所ユナイテッド

この物語は茶所ユナイテッドに関わる人々のお話し…

茶所市は、埼玉県西部を流れる入間川沿いに位置する、入間市と狭山市が合併してできた市である。

ユナイテッドという名称もその経緯からつけられた。

茶所ユナイテッドは、一昨年にＪＰ２（日本プロリーグ二部）に加盟。しかし初年度は最下位、昨年も最下位を脱出するのがやっとの１９位。おまけに観客動員でもキャパシティの小さい入間川スタジアム（最大収容人数：１５、５００人）がホームスタジアムであり、近くにさいたまレッドデビルスやビクトリー東京といったビッグクラブがあることなどから、昨年の平均観客動員数は１、９７０人と全クラブの中で最下位である。

唯一の救いは、市内に工場をもつ半田技研や大日印刷といった大企業がスポンサーであることで、とりあえず経営難で、チームがなくなる心配は今の所ない。しかしなにしろ弱くて、人気のないクラブなので、いつ撤退するか…という懸念もある。

第一話：キングの背中

2007年1月

昨年度19位に終わったユナイテッドは二部リーグのクラブにしては潤沢な資金をいかして、有名選手を獲得しようとしていた…

そこでクラブは神戸パイレーツを解雇された“キング”こと藤山和彦を獲得しようと動く。

狙いとしては知名度抜群の藤山を獲得し伸び悩む観客動員の増加を狙ういがあった。

藤山自身は一部リーグでのプレーを望んでいたが、高額な年俵と今シーズンで39歳という高齢で一部リーグのクラブに断られ、二部リーグのクラブにしてもその高額な年俵がネックであった。

こうして結局争奪戦もなく日本で一番人気のないクラブに、日本で一番人気のあるプレーヤーが入団することになったのだ。

2007年1月11日

茶所ユナイテッドクラブハウスの狭いプレスルームにはクラブのオーナー・GM・監督と藤山和彦、そして多くの報道陣が詰めかけていた。

この会見で藤山選手は

「新しい環境でもう一度自分自身を鍛える為に、移籍を決断しました。また初めて二部でプレイしますが、不安はありません。このクラブで引退するつもりできています。このクラブを一部に昇格させます。皆さん応援よろしくお願いします。」と語った。

2006年12月

兵庫県神戸市西区にあるいぶき森球技場。
広いグラウンドに一人の男が佇んでいた。

「やれやれ…この俺が0円提示とはな」

神戸パイレーツから来期の契約を結ばないといわれた藤山。神戸での最後の練習を終えた彼は

「ここにくるのも今日で最後か…」

と感慨に浸っていた。

「カズはん」

名前を呼ばれ振り向くと弟分のFW高井がいた。

「おう、どうした？高井」

「どうしたやないですよ…もついきはるんですか？」

「ウチはカップ戦で既に負けてて昨日で練習終わりだろ？」

「いや、そうですけど…カズはんがおらんかったらわいは誰とツー
トップ組めばええんですか？」

「去年俺は殆ど試合にでてないだろ…そもそもガブリエルがいるだ
ろ」

「大体なんで茶所なんすか、もつと他に…」

「茶所しかなかったんだよ」

高井の言葉をさえぎる。

「……わかりましたよ。カズはん。まあこれでカズはんとは戦うこと
はなさそうですわ」

「おいおいカップ戦があるだろう…それに来年一部にあがるからな」

「…それ、ありえまへん。冗談キツイスよ」

「まあみてるよ…これからの俺達を」

そう言ったあと背を向けてグラウンドを後にする藤山。その背中
は解雇された男とは思えない雰囲気があった。

そしてきがつくと高井は去っていく藤山むかってにお辞儀をして
いた…。

第二話：キャンプイン

ユナイテッドは愛媛県で二週間ほどキャンプをはる。

就任三年目の皆本監督は、若手の育成に定評があり、今年は昨年の課題だった、決定力不足解消をテーマにあげている。

そんななかキャンプ初日に新加入選手の自己紹介が始まった…。

「神戸から移籍してきました。藤山です。ユナイテッドを一部に上げるためにきました。これから一緒に頑張りましょう。」

「ユースから昇格した片桐 篤彦です。精一杯頑張ります。」

「俺は榎本 尚輝。ポジションはキーパー。ヨロシクお願いしやうす。」

自己紹介も終わり

挨拶や抱負…その他諸々が終わったのち
いよいよ練習開始。

入念にストレッチをしたあと、全員でランニング。

ここでも藤山は手を抜かない。若手よりも前を走る。

それにつられて周りも真剣になり始めた。

「カズめ…期待通りじゃな」皆本監督は嬉しそうに呟いた。

その日の晩。夕食の席で新人の片桐が

「カズさん。椎名さん。ご一緒に…いいですか？」

と二人のベテランに話しかけた。

「おういいいぜ。親父二人じゃあ、渋すぎるからなあ。」

「カズさん…キツイなあ…」

「ハハハ…」

笑いながら片桐はカズの隣に座った。

「ところで、どうだ篤彦。プロの練習は？やっぱりキツイか？」

「ハイ。やっぱりキツイですし、ユースとは判断のスピードとか違うところが多くて大変です。でも精進します。」

「そうだな。頑張れや〜若いんだから。」

「ハイ。でもカズさんも若いですねえ。常に先頭走ってるし、やっぱり凄いです。」

「あのなあ、人の事凄いつて言ってるうちは上手くなねえよ。お前はプロだろ。チームにいただけじゃ駄目なんだよ。」

「まあまあ、カズさん落ちついて…まだルーキーじゃないですか。」

「哲平。ルーキーとかベテランとか関係ないんだよ。プロとしての心構えの問題なんだよ。」

「いや…そのとおりですけど、まだ初日ですし…なあ片桐？」

「えっ…あ、ハ、ハイ」

「ご馳走さま」

そうついうなり食堂を後にする藤山。

「あ…あの、カズさ…」

片桐が後を追いかけてようとするが、椎名に止められる。

「今はやめておけ。ごっそうさん。お先に」

取り残された片桐の脳裏には、さっきの藤山の言葉が耳に残っていた。

第三話：プレシーズンマッチ

キャンプも終わり、シーズンまで残りわずか。

ユナイテッドも開幕へ向けての準備を、着々と進めていた。

そして今日は、プレシーズンマッチ。一部所属の大宮アウローラとアウエイで対戦する。

同じ県にあるチーム同士ながら、ユナイテッド側はあまり観客が入っておらず。アウローラサポーターの歌声が響いている。

「うわぁ…これが一部の応援か。」

「緊張してんのか。」

「カズさん。」

片桐が緊張するのには訳があった。

30分前…

「今日のメンバーを発表する。」

皆本監督の声がロッカーに響き渡る。

選手の間には緊張感が漂う…。

「キーパーは手塚」

「センターバックは右に椎名、左にトーレス」「右のバックに鈴木、左は佐藤」

「ボランチはドイスボランチ。右に成田、左に河野」

「右ハーフに片桐、左ハーフにヨルン。」

「ツートップは右にパク、左にカズ。」

スタメンは以上だ。

「俺がスタメン…。」

「やったな。ルーキーでスタメンなんて、凄いじゃねえか。」

「鈴木さん…ありがとうございます。」

「まあ、気持はわかるけど、あんまり緊張するなよ。」

「ハ、ハイ。」

そして戦術について話があったあと、主将の椎名が

「よっしゃ、格上だろうがなんだろうが、走り負けんな。勝つのは俺達だ。行くぞ。」

と激を飛ばす。

『オ』

こうしてユナイテッドのイレブンが、大宮サッカー場のピッチへと散って行った。

いよいよユナイテッドのシーズンが始まる…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4550d/>

ユナイテッド

2010年11月12日16時39分発行